



みんなの水泳……日々徒然

東京2020に向けて ～いよいよ2020年～

はじめに

今回は、東京2020パラリンピック競技大会までの国際競技会や、パラ水泳に特有の競技規則についてお伝えしました。

今回は、2020本大会までの諸々や、パラ水泳の競技規則についてさらに詳しくお伝えしたいと思います。

2020年パラ水泳春季記録会は…

2020年3月6日から8日まで、静岡県富士水泳場において、パラ水泳春季記録会が、午前中は記録会として、午後は東京2020パラ水泳日本代表選手の選考戦として、開催される予定でした。

しかし、新型コロナウイルス感染症に関連して、2月26日にスポーツ庁政策課から「各種スポーツイベントの開催に関する考え方」について、「今後2週間に予定されているものについて、中止、延期又は規模縮小等の対応をするように」との通知があり、この通知を受けて、主催者であるJPSFが検討した結果、大会の中止が2月27日に発表されました。

発表には、東京2020パラ水泳日本代表選手の選考時期、方法について、日本障がい者スポーツ協会と協議をしていく、5月22日～24日に開催予定の2020ジャパンパラ水泳競技大会を検討していきたいとの考えも記載されています。

現在は、5月22日～24日開催予定のジャパンパラ水泳競技大会での記録をもとに推薦選手を選考するべく、その方針と基準が発表されています。

<https://team.paraswim.jp/wp/wp-content/uploads/2020/03/>

【改定】東京2020パラリンピック水泳競技推



薦選手選考方針と基準について_%.ef%bc%a8%.ef%bc%b0.pdf

2020 WPSワールドシリーズ大会も影響を…

2020年もWPSは7つのワールドシリーズ大会を予定していましたが、(下記、表のとおり)。

2/14-16	豪州	メルボルン
2/27-3/1	イタリア	リニャーノサビアードーロ
3/25-28	ブラジル	サンパウロ
4/9-12	英国	シェフィールド
4/16-18	米国	インディアナポリス
5/1-3	シンガポール	
6/18-21	ドイツ	ベルリン

■はキャンセルされた大会 ■は延期された大会

東京2020本大会をにらみ、多くの選手がMQSを達成すること、また少しでもいい記録で泳ぐことを目標にワールドシリーズに参戦するべく調整してきたわけですが…、ワールドシ

ーズ開幕戦となる2月のメルボルン大会は無事に開催され、日本チームも国際クラス分けを含めて大会に参加しました。

が、その後、新型コロナウイルスの影響を受けて、いくつかのタイミングで複数のワールドシリーズ大会のキャンセルが発表されています。まずキャンセルを発表したのはシンガポール大会、その後リニャーノサビアードーロ大会、サンパウロ大会、シェフィールド大会と続きました。インディアナポリス大会は、今年後半への延期を発表しています。

これらはどの大会も国際クラス分けの実施を予定していましたが、キャンセルされたことから、WPSは、今年国際クラス分けの実施を予定していなかった6月のベルリン大会で国際クラス分け実施すべく、調整をしています。

R2020ステイタスの選手が、東京2020パラリンピック大会に出場するために、2020年ワールドシリーズ大会または欧州オープンに出場し、クラス分けを受ける必要がある選手について、本大会まで半年を切ったこの時点で、これらワールドシリーズ大会のキャンセルに対応するため、調整に次ぎ調整をしなければならぬ状況になっています。

各国は、国際の動向を見極めつつ、情報が入り次第、柔軟に対応していく必要があります。

東京2020パラリンピック大会の水泳競技

東京2020パラリンピック競技大会における選手枠数、実施種目、枠配分方法、MQS(標準記録)についても既に発表されています。

〈参考〉選手枠の配分方法などは、「Tokyo2020 Paralympic Games Qualification Regulations」に記載されています。

https://www.paralympic.org/sites/default/files/2020-03/2020_03_06%20Tokyo%20QG.pdf
(最新版は2020.3月版)



競技スケジュールは既に発表になっており、8月26日(水)～9月4日(金)の10日間、午前に予選が、午後に決勝が行われます。

午前セッションは9:00開始、午後セッションは17:00開始です(リオ2016大会はそれぞれ9:30、17:30でした)。

予選は概ね2時間半のセッションとなること発表されています。通常、予選は淡々と競技が進められます。

決勝はレースとメダルセレモニーが行われますので、概ね3時間半～4時間のセッションとなる予定です。決勝セッションでは、毎日13種目～16種目でメダリストが生まれることとなります(予選、決勝ともに、日ごとに終了時刻は異なります)。8月のエントリー後にいくつかの修正がある可能性があります。
https://tokyo2020.org/jp/games/schedule/paralympic/20200826_SWM.html



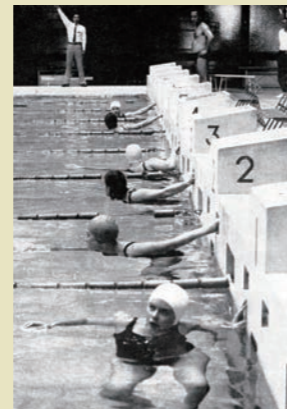
東京1964パラリンピック

パラリンピック大会は1960年のローマ大会が第1回とされています。1964年の東京大会は第2回とされていますが、どちらも開催時に公式にパラリンピック大会とされていたのではなく、後に遡って第1回、第2回とされています。

パラリンピック大会において、水泳競技は第1回ローマ大会から実施競技となっています。第1回のローマ大会水泳競技には日本選手は出場しておらず、第2回の東京1964大会から参加し、青野繁夫選手がMen's 50m Freestyle Supine Complete class 5で銀メダル、牧岡節美選手がMen's 50m Freestyle Prone Complete class 4で銅メダルと、合計2個のメダルを獲得しています。

これら過去大会の記録やメダリスト名などは、IPC公式Web siteで見ることができます。

<https://www.paralympic.org/tokyo-1964/results/swimming>



1964年東京パラリンピックのスタート風景 (写真: 日本障がい者スポーツ協会)



入水介助はこんな感じでした (写真: 日本障がい者スポーツ協会)

パラ水泳競技規則

●フィートスタート

S/SB/SM1～3のクラスの選手について、フィートスタートと呼ばれるスタートが許されています。

サポートスタッフが水中で浮き姿勢になっている選手の足を壁につけるサポートを行うスタートです。

多くの場合、背浮き姿勢で行いますが、稀にうつ伏せで行うケースもあります。



フィートスタート(正面側から)



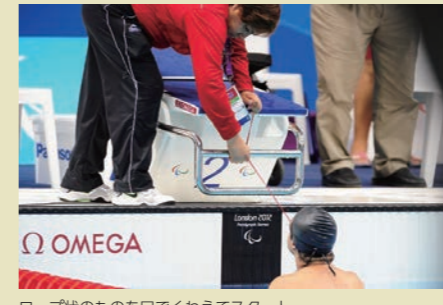
フィートスタート(上から)

●スターティングデバイス

スタートにおいて、なんらかの道具を使用してスタートが許される場合があります。

いわゆるフェイスタオルや紐、(スポーツバッグのショルダーベルトのような)ベルト素材など、選手によって様々な工夫を凝らして作られていることもあります。

誰でも使用してよいわけではなく、クラス分けにおいて、「Y」というCoEを付与された選手のみ行うことができます。



ロープ状のものを口でくわえてスタート



ベルト素材を使用したスターティングデバイス



ハンガーのようなタイプは特注品!



縄梯子のような形状のタイプ